

平成 20 年度 事業報告

自 平成 20 年 4 月 1 日

至 平成 21 年 3 月 31 日

I. 鑄造業関連経済動向

1. 全体景況

政府発表によれば、平成 20 年度の我が国経済は、世界の金融資本市場の危機を契機に世界的な景気後退が見られる中で、外需面に加え国内需要も停滞し、景気の下局面にある。雇用情勢が急速に悪化しつつあるとともに、企業の資金繰りも厳しい状況となっている。

平成20年度の国内総生産の実質成長率は、マイナス0.8%程度になると見込まれる。

2. 鑄造業界

- (1) 鉄鑄物の 2008 年(平成 20 年)の生産は、5,127 千トン、対前年比 97.5%と 2002 年以来 6 年ぶりに前年を下回った。500 万トン台の生産は維持したものの、上期の好調な生産から、下期は一転して前年を大きく下回る水準であった。
- (2) 鋳鉄鑄物の 2008 年の生産は、4,334 千トンと対前年比 96.7%と同じく 6 年ぶりに前年を下回った。上期は前年を上回る生産水準であったが、8 月以降生産は下降に向かい、10 月以降は過去に例を見ない大幅な生産減少となり、12 月は対前年同月比 65.6%であった。生産金額は、9,068 億円、対前年比 104.2%と原材料高騰を反映して前年を上回ったものの、10 月以降は前年同月を大きく下回り、12 月は対前年同月比 73.8%であった。
- (3) 原材料動向については、全ての原材料が上期は昨年末から引き続いて大きく高騰したが、スクラップは 7 月をピークに急激に値下がりし 11 月になってようやく底を打つ状況であった。しかし、コークス、鑄物用鋳鉄、副資材は下期も依然として高値が継続し、下期に入って低操業を余儀なくされる中で会員企業の収益を大きく圧迫した。

(単位：千トン、%) (単位：百万円、%)

平成(年)	合計	鋳鉄鑄物	鑄鉄管	可鍛鑄鉄	鑄鋼	精密鑄造品
13(2001)	4,548(92.1)	3,632(90.8)	564(97.2)	93(94.9)	259(98.1)	49,305(104.7)
14(2002)	4,391(96.5)	3,602(99.2)	477(84.6)	80(86.0)	232(89.6)	44,930(91.1)
15(2003)	4,702(107.1)	3,803(105.6)	583(122.2)	81(101.3)	235(101.3)	39,742(88.5)
16(2004)	4,890(104.0)	4,102(107.8)	453(77.7)	77(95.1)	258(109.8)	43,873(110.4)
17(2005)	5,045(103.2)	4,299(104.8)	403(88.9)	66(85.7)	277(107.4)	46,293(105.5)
18(2006)	5,217(103.4)	4,425(102.9)	445(110.5)	56(84.9)	291(105.1)	47,193(101.9)
19(2007)	5,259(100.8)	4,484(101.3)	417(94.1)	54(94.7)	304(104.5)	53,714(113.8)
20(2008)	5,127(97.5)	4,334(96.7)	435(104.3)	48(88.9)	310(102.0)	59,989(111.7)

※注 () は、対前年比

II. 協会活動の概要

本年度は、アクションプラン 2008 に基づき①経営力の強化、②取引慣行の改善、③技術の革新、④人材の確保・育成を重点項目として多くの事業に取り組んだ。主な事業概要は次の通り。

1. 社団法人日本非鉄金属鋳物協会（以下日非協という）との統合を推進するために、両協会から構成する統合準備委員会を設置し、12月に統合答申案を作成し、2月16日の臨時総会において、日非協との統合を承認した。なお、統合は平成21年7月1日を予定。
2. 下期から急速に悪化した鋳物需要動向に関する情報を会員に提供するために、広島で開催した秋季大会の中で主要需要動向説明会を急遽実施するとともに、2月20日に東京において原材料・主要需要動向説明会を開催した。
3. 上期は原材料高騰に対する会長名によるお客様宛の要望文書を昨年引き続き会員に配布すると共に平成20年12月26日付で大幅な受注減による低操業を余儀なくされている鋳造業界の現状に理解を求めお客様宛文書を会員に配布した。また、9月から協会ホームページに主要原材料・副資材の価格指数推移を掲載した。
4. 平成20年12月に改訂された素形材産業、自動車産業の適正取引ガイドラインを広く会員に周知し、ガイドラインや下請法の周知を目指して組合単位でのセミナーの開催に協力した。経済産業省が主催する下請取引適正化推進会議に素形材業界代表として出席した。
5. 当協会が制定した基本契約書、秘密保持契約書、鋳物用貸与模型の取扱いに関する覚書の全面的な見直しを行い、新たに鋳造商品取引基本契約書を作成した。
6. 支部発足準備委員会を7月に開催し、本部情報の地方への円滑な浸透と地方組織の活性化についての検討を行った。これに関連して、中部支部は本部と一体となった早い情報展開を目指して特別企画講演会を開催。また名古屋、大阪、石川、岡山地区においても各地の組合と連携して同様の講演会を開催し本部活動情報を地域の会員に提供した。
7. 平成20年度の戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン委託）を1件受託し、これまでの受託事業と併せて5件の研究開発を推進し、うち1件が終了した。
8. 経産省の鋳造技術ロードマップ改訂作業に協力し、重要技術課題に基づく平成21年度新規サポインテーマ14件の取りまとめを行った。
9. 鋳造技術の伝承、鋳造欠陥等のデータベース構築を行えるソフト（CAST-NAVI®）を開発し、11月より全国8か所で説明会を開催し頒布に努めた。
10. 将来の鋳物工場の経営者や工場長の育成を目指した鋳造カレッジを6月より関東、中部、中国四国の3地区で開設し、合計60名が受講し、全員が修了した。
11. 春季大会は、5月19日、名古屋市にて日本鋳造工学会との合同開催により講演会、懇親会を開催した。秋季大会は、11月8日~9日、広島市において講演会、懇親会、工場見学会を開催した。2月に青年部全国大会を静岡で開催した。
12. 9月ウィーンで開催された国際鋳造フォーラムに参加し、併せてドイツ鋳造協会（BDG）との定期協議を行った。6月にメタルチャイナに参加するとともに中国鋳造産業視察団を2班派遣した。12月には韓国鋳造産業視察団を2班派遣するとともに、韓国鋳物工業協同組合との今後の協力を行う覚書を締結した。
13. 鋳物産業振興議員連盟をはじめ関係政府機関に、鋳造業に係る施策・税制等の要望を行った。取引ガイドラインの不合理な取引の調査等による改善状況調査等のフォローアップの実施が昨年に引き続きなされた。
14. 平成21年2月に政府が取りまとめた「雇用創出企業1,400社（企業概要集）」に当協会会員企業87社が掲載された。

Ⅲ. 会議に関する事項

1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、総会、臨時総会、理事会 5 回、正副会長会 5 回、監事会 1 回それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

また、今年度新たに顧問会議、参与会議を開催した。日非協との統合を推進するために統合準備委員会及び臨時総会を開催した。

(1) 総会

1) 通常総会

平成 20 年 5 月 23 日（金）、名古屋観光ホテルに於いて第 4 回通常総会を開催し、平成 19 年度事業報告・同収支決算、20 年度事業計画・同収支予算、任期満了に伴う理事及び監事選任について審議・承認した。

2) 臨時総会

平成 21 年 2 月 18 日（水）機械振興会館に於いて臨時総会を開催し、(社) 日本非鉄金属鋳物協会との統合、定款変更について審議・承認した。

(2) 理事会

第 16 回から第 20 回までの合計 5 回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

1) 第 16 回：平成 20 年 5 月 23 日（金）名古屋観光ホテル

2) 第 17 回：平成 20 年 8 月 28 日（木）機械振興会館

3) 第 18 回：平成 20 年 11 月 12 日（水）ANA クラウンプラザホテル広島

4) 第 19 回：平成 21 年 1 月 16 日（金）虎ノ門パストラルホテル

5) 第 20 回：平成 21 年 3 月 18 日（水）機械振興会館

(3) 正副会長会

第 18 回から第 22 回までの合計 5 回開催し、重要案件について審議した。

1) 第 18 回：平成 20 年 6 月 26 日（木）機械振興会館

2) 第 19 回：平成 20 年 8 月 7 日（木）日立金属高輪和彊館

3) 第 20 回：平成 20 年 10 月 9 日（木）機械振興会館

4) 第 21 回：平成 20 年 12 月 10 日（水）機械振興会館

5) 第 22 回：平成 21 年 2 月 18 日（水）機械振興会館

(4) 監事会

平成 20 年 4 月 17 日（木）機械振興会館に於いて監事会を開催し、平成 19 年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行なった。

(5) 顧問会議

1) 第 1 回：平成 20 年 12 月 11 日（木）日立金属高輪和彊館

(6) 参与会議

1) 第 1 回：平成 20 年 8 月 7 日（木）日立金属高輪和彊館

2) 第 2 回：平成 21 年 3 月 18 日（水）機械振興会館

(7) 統合準備委員会

1) 第 1 回：平成 20 年 12 月 17 日（水）機械振興会館

2. 部会に関する事項

(1) 鋳造産業ビジョン推進特別部会

1) 鋳造産業ビジョン推進特別部会を 1 月に開催し、平成 19 年度に作成した「アク

シヨンプラン 2008」の進捗状況を審議し、平成 21 年度事業計画の基本方針となる「アクションプラン 2009 案」を取りまとめ、5 部会との調整を行い、「アクションプラン 2009」を作成した。

2) 部会の活動

第 1 回 平成 21 年 1 月 17 日 (土) 機械振興会館

(2) 総務部会

1) 総務部会を 4 回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営 (他の部会に属するものを除く) に関する事項について審議した。

第 9 回 平成 20 年 7 月 10 日 (水) 機械振興会館

第 10 回 平成 20 年 10 月 1 日 (水) 機械振興会館

第 11 回 平成 20 年 12 月 17 日 (水) 機械振興会館

第 12 回 平成 21 年 3 月 5 日 (木) 機械振興会館

2) 総務委員会を総務部会と合同開催し、平成 20 年度収支決算見込み等について審議した。

3) 総務部会の下に取引基本契約WGを設置して、当協会が制定した基本契約書、秘密保持契約書、鋳物用貸与模型の取扱いに関する覚書の全面的な見直しを行い、新たに鋳造商品取引基本契約書を作成した。

平成 21 年 3 月 5 日 (木) 機械振興会館

(3) 経営部会

経営部会を 4 回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討と、会員の企業経営に役立つ情報の提供並びに行事等の企画・立案について審議した。

第 11 回 平成 20 年 6 月 17 日 (火) 機械振興会館

第 12 回 平成 20 年 10 月 10 日 (金) 機械振興会館

第 13 回 平成 20 年 11 月 27 日 (木) 高輪和彊館

第 14 回 平成 21 年 2 月 20 日 (金) 機械振興会館

(4) 技術部会

技術部会を 3 回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討およびサポイン新規案件の抽出、委員会運営等に関する事項について審議を行った。

第 1 回部会 平成 20 年 6 月 19 日 (木) 機械振興会館

第 2 回部会 平成 20 年 11 月 20 日 (木) 機械振興会館

第 3 回部会 平成 21 年 2 月 6 日 (金) 機械振興会館

(5) 国際部会

国際部会を 3 回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議を行った。国際部会に併せて国際委員会を開催し、鋳造関係の国際会議やセミナー参加に対する実行企画立案、参加有無の決定、海外鋳造団体とのネットワーク構築、海外鋳造業の実態調査、海外視察調査団の派遣等を推進した。

第 1 回部会 平成 20 年 5 月 23 日

第 2 回部会 平成 20 年 10 月 6 日

第 3 回部会 平成 21 年 2 月 2 日 名古屋市 (新東工業本社)

(6) 中小企業部会

中小企業部会を 5 回開催し、本協会の中小企業振興に関する事業、組合に関する事業等について審議を行った。

第 12 回 平成 20 年 5 月 21 日 (木) 機械振興会館

- 第13回 平成20年 8月28日(木) 機械振興会館
- 第14回 平成20年12月12日(金) 大阪
- 第15回 平成21年 2月20日(金) 機械振興会館
- 第16回 平成21年 3月26日(木) 機械振興会館

IV. 社団法人日本非鉄金属鋳物協会との統合に関する事項

1. 統合準備委員会

- (1) 社団法人日本非鉄金属鋳物協会(以下、日非協という)との統合を進めるために、10月に両協会合同正副会長会を開催し、統合に際しての日非協の要望事項を両協会から構成する統合準備委員会を設置して審議することとした。
- (2) 平成20年12月17日に統合準備委員会を開催し、統合後の役員、会費、協会事業運営組織、事業内容等についての取りまとめを行い、統合答申案を作成した。
- (3) 統合答申案は、平成21年1月16日の理事会で承認され、協会組織変更を伴う重要事項につき臨時総会を開催することとした。

2. 臨時総会

- (1) 平成21年2月18日に臨時総会を開催し、日非協との統合、統合に伴う理事定数の変更を承認した。この結果、当協会の事業範囲はダイカストを除く鋳造を対象とし、理事定数は55~60名となった。

V. 事業活動に関する事項

1. 大会及び講演会・講習会等の開催に関する事項

(1) 鋳物業取引改善説明会の開催

鋳物業会員の取引改善のために原材料・副資材の動向、需要業界の動向等の説明会を3回開催した。

1) 「原材料・副資材動向及び取引改善説明会・情報交換会」

原材料の動向、原材料等高騰によるコスト増の価格転嫁の実例、取引改善の取組みについての説明会。

平成20年9月3日(水) 機械振興会館 参加人数156名

2) 「原材料動向及び需要業界動向説明会・情報交換会」

生産動向、雇用情勢・資金繰り対策等アンケート結果、行政による支援策、原材料・需要業界の動向についての説明会。

平成21年2月20日(金) 機械振興会館 参加人数111名

3) 「当面の主要業界の動向について」(秋季大会の講演会)

秋季大会の経営講演会として受注量の急激な変化を重要と考え、需要主要業界の当面の動向について講演。(秋季大会プログラムを参照)

平成20年11月13日(木) ANAクラウンプラザホテル広島 参加人数219名

4) 「適正取引等の推進のためのガイドライン」説明会の開催

中小企業部会の協力により、中小企業団体中央会支援による「適正取引等の推進のためのガイドライン」説明会を各組合で合計9回開催。

平成20年 7月25日(金) 全九州鋳鉄鋳物工業組合福博部会

平成20年 7月29日(火) 富山県鋳物工業協同組合

平成20年 8月 5日(火) 全九州鋳鉄鋳物工業組合理事会

平成 20 年 8 月 5 日 (火) 石川県鋳物工業協同組合

平成 20 年 8 月 23 日 (土) 中国・四国地域 (岡山県鋳造工業協同組合主催、広島県鋳物工業協同組合・福山地方鋳造工業協同組合共催)

平成 20 年 9 月 16 日 (火) 愛知県鋳物工業協同組合

平成 20 年 9 月 25 日 (木) 三重県鋳物工業協同組合

平成 20 年 11 月 5 日 (水) 西尾市鋳物工業協同組合

平成 20 年 12 月 8 日 (土) 川口鋳物工業協同組合

(2) 春季大会の開催

平成 20 年 5 月 24 日 (土) 名古屋市において春季大会を鋳造工学会と合同で開催し、講演会、懇親会を実施した。参加人数は、延べ 308 名であった。

1) 講演会 平成 20 年 5 月 24 日 (土) ポートメッセなごや (参加者 60 名)

演 題	講演者	所 属
素形材人材ネットワーク構想の実現に向けて	渡邊 政嘉	経済産業省製造産業局 素形材産業室長
今、鋳造業界・団体に期待すること	長沢 聖一	東海精機(株) 取締役社長
発展著しいタイへの進出物語	南陽 政治	ナンヨー(株) 常務取締役
自動車産業の現状と今後の課題	佐竹 茂	トヨタ自動車(株) 第 2 材料技術部長

(3) 秋季大会の開催

平成 20 年 11 月 13~14 日広島市において秋季大会を開催し、講演会、懇親会、工場見学会を実施した。参加人数は、延 456 名であった。

1) 講演会 平成 20 年 11 月 13 日 (木) ANA クラウンプラザホテル広島

演 題	講演者	所 属
サポイン 3 テーマの技術開発進捗状況報告 1) 鋳物製造における劣悪作業の作業効率を向上させる革新的パワーアシスト装置の開発	寺嶋 一彦	豊橋技術科学大学 教授
2) 鋳鉄溶湯の不純物除去と無害化技術の開発	菅野 利猛	(株)木村鋳造所 取締役開発部長
3) 精密鋳造品高度化に向けた造型技術の開発	那須 征雄	キングパーツ(株) 技術顧問
CO ₂ 排出量の把握/廃棄物(使用済み鋳物砂等)の現状と今後	服部 敏裕	環境対策委員会 委員
CAST-NAVI® (キャストナビ) の概要とその活用方法	伊藤 賢児	技術データベース構築委員会 委員長
欧州における砂処理技術の最新動向	マイケル・ウエッセル	アイリッヒ社
アメリカ鋳造市場のベンチマークと最新技術	ジェームズ・アーチボルト	アシュランド社
コア技術 (KS 式電気炉) を活かした技術開発と事業展開	木下 潔	(株)木下製作所 代表取締役社長

鑄造業のDIYを目指して	高橋 孝一	キングパーツ(株) 代表取締役社長
中国進出鑄物企業から見た中国鑄物商品力(価格、品質、納期)の現状	湯川 善晴	(株)湯川鑄造所 代表取締役社長
当面の主要業界の動向について		
1) 自動車業界の動向について	下河内 隆士	量産銑鉄鑄物委員会 委員長
2) 工作機械業界の動向について	山本 幹雄	非量産銑鉄鑄物委員会 委員長
3) 建設機械業界の動向について	佐藤 泰樹	コマツキャストックス(株) 代表取締役社長
4) 非鉄に関する主要業界の動向について	田島 正明	非鉄委員会 委員長
5) 主要原材料の動向について	草野 泰道	市場調査委員会 委員
6) 今後の取り組みについて	中谷 兼武	(社)日本鑄造協会 会長

2) 工場見学会 平成20年11月14日(金)

	見学先		参加人数
第1班	広島アルミニウム工業(株) 新郷工場・千代田工場	マツダ(株)	38名
第2班	大和重工(株)	(株)シンコー 府中工場	34名
第3班	(株)北川鉄工所 下川辺工場・福山工場	キングパーツ(株)	33名

(4) 新年賀詞交歓会 平成21年1月16日(金)

会員の情報交換及び懇親を目的に、「新年賀詞交歓会」を虎ノ門パストラルホテル(港区)に於いて開催した。賀詞交歓会には、行政、学会、関係団体からの招待を含めて235名の参加があった。

(5) 平成20年度青年部全国大会の開催 平成21年2月12~13日

平成21年2月12~13日静岡市において青年部全国大会を開催し、講演会、情報交換会、工場見学会を実施した。

1) 講演会 平成21年2月12日(木) ホテルセンチュリー静岡 参加人数 87名

演題	講演者	所属
「伝統は改革の連続ナリ」 <small>つらなり</small>	木村 博彦	(株)木村鑄造所 代表取締役社長
「自動化を目指す大型枠込め造型」 (風力発電用大型鑄物生産)	G. ギャラント	I. M. F. President
「鑄物に対する夢」	永井 淳	新東工業(株) 代表取締役社長
「素形材産業政策の現状について」	内田 隆	経済産業省 素形材産業室 課長補佐

2) 工場見学会 平成21年2月13日(金)

(株)木村鑄造所 御前崎工場、栗田工業(株) 大東工場を見学。参加人数 72名。

(6) ISO講習会

ISO取得促進のために現場研修会および工場見学会を開催した。

①平成20年7月3日(木) 日鋼マテリアル(株)、マツダ(株) 参加者 22名

- ②平成 20 年 12 月 11 日（木）日産自動車㈱、コマツキャスト㈱ 参加 12 名
- (7) 鋳造業リスクアセスメント推進研修会
 労働災害の減少を図るため、安全管理手法としてリスクアセスメント（機械等や作業の危険・有害性の事前評価）を推進する研修会を他 3 団体（（社）日本非鉄金属鋳物協会・日本鋳鍛鋼会・（社）日本ダイカスト協会）合同で開催した。
 平成 21 年 3 月 26 日（木）10：30～16：30
 機械振興会館地下 3 階研修 1 参加者 21 名
- (8) 鋳造技術研修会
 鋳造の基礎技術を、現場作業者を対象に 4 回開催した。
 第 1 回 平成 20 年 6 月 14 日（土）札幌市 参加者 19 名
 第 2 回 平成 20 年 11 月 1 日（土）奥州市 参加者 17 名
 第 3 回 平成 20 年 11 月 29 日（土）京都市 参加者 29 名
 第 4 回 平成 21 年 2 月 28 日（土）福岡市 参加者 53 名
- (9) CAST-NAVI[®]説明会
 CAST-NAVI[®]の普及を図るため、8 地区で開催した。
 第 1 回 平成 20 年 11 月 26 日（水）東京都 参加企業 22 社
 第 2 回 平成 20 年 11 月 28 日（金）大阪市 参加企業 18 社
 第 3 回 平成 20 年 12 月 5 日（金）札幌市 参加企業 6 社
 第 4 回 平成 20 年 12 月 16 日（火）福岡市 参加企業 12 社
 第 5 回 平成 21 年 2 月 4 日（水）高岡市 参加企業 9 社
 第 6 回 平成 21 年 2 月 10 日（火）名古屋市 参加企業 11 社
 第 7 回 平成 21 年 2 月 17 日（火）静岡市 参加企業 17 社
 第 8 回 平成 21 年 2 月 27 日（金）広島市 参加企業 11 社

2. 鋳造業の経営改善・振興対策に関する事項

- (1) 原価計算モデル委員会の活動
 適正な価格での販売に役立つ、製品 1 個当りの製造原価を把握できる原価計算モデルソフトを会員に提供するための委員会を開催した。 累計販売数（175 本）
 第 13 回 平成 20 年 5 月 9 日（月）愛知県鋳物工業協同組合
- (2) 若手後継者委員会による普及活動
 原価計算モデル普及のための若手後継者委員を対象とした研修会を 2 回開催した。
 第 1 回 平成 20 年 9 月 19 日（金）愛知県鋳物工業協同組合
 第 2 回 平成 21 年 1 月 21 日（水）愛知県鋳物工業協同組合
- (3) 量産銑鉄鋳物委員会の活動
 量産銑鉄鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に 4 回開催した。
 第 1 回 平成 20 年 6 月 24 日（火）高輪和彊館 参加者 29 名
 第 2 回 平成 20 年 9 月 11 日（木）～12 日（金）北上 参加者 18 名
 第 3 回 平成 20 年 12 月 11 日（木）高輪和彊館 参加者 22 名
 第 4 回 平成 21 年 3 月 12 日（木）～13 日（金）参加者 20 名
- (4) 非量産銑鉄鋳物委員会の活動
 非量産銑鉄鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に 3 回開催した。

- 第1回 平成20年 6月24日(火) 高輪和彊館 参加者22名
 - 第2回 平成20年 9月10日(水) 高輪和彊館 参加者29名
 - 第3回 平成21年 2月13日(金)～14日(土)コマツキャステックス(株)(富山) 参加者13名
- (5) 精密鑄造経営委員会の活動

精密鑄造会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

- 第12回 平成20年 6月6日(金) 機械振興会館 参加者9名
 - 第13回 平成20年 9月10日(水) 機械振興会館 参加者8名
 - 第14回 平成20年12月3日(水) 機械振興会館 参加者9名
 - 第15回 平成21年 3月6日(水) 機械振興会館 参加者8名
- (6) 鑄鋼鑄物委員会の活動

鑄鋼鑄物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的とした委員会を今年度新たに設置し、2回開催した。

- 第1回 平成20年10月21日(火) 機械振興会館 参加者10名
- 第2回 平成21年 3月10日(火) 機械振興会館 参加者17名

3. 調査研究に関する事項

(1) 市場調査委員会の活動

- 第10回 平成20年 6月30日(月) 機械振興会館
- 第11回 平成20年10月10日(金) 機械振興会館

(2) 調査項目

- ①製品別生産量・生産金額、都道府県別生産量・生産金額、従業員数の統計調査
- ②原材料、副資材価格動向調査
- ③景況調査
- ④倒産、転業、廃業、休業等調査
- ⑤需要予測調査
- ⑥模型の廃棄・保管に関する調査
- ⑦景況悪化に伴う生産動向、雇用状況、資金繰り状況の調査

4. 鑄造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

(1) 鑄物産業振興議員連盟への要望・陳情

鑄造業に関する諸施策・税制等について鑄物産業振興議員連盟へ鑄造業に係る施策・税制等の陳情書を提出した。

1) 鑄物産業振興議員連盟役員との打合せ会

- ①日時 平成20年9月4日(木) 11時～14時
- ②場所 虎ノ門パストラルホテル 新館3階「さつき」
- ③議題 1. 銑鉄鑄物業界の現状について
2. 陳情内容について

鑄物産業振興議員連盟に対して平成20年10月21日付で陳情書を提出した。なお、例年開催している鑄物産業振興議員連盟の総会は都合により延期となった。

2) 国税・地方税の要望・陳情

「平成21年度税制改正に関する鑄物業界の要望」について、関係官庁並びに自由民主党政務調査会に要望書を提出し、陳情した。(鑄物関連2団体連名の要望書による。)

- ①平成 20 年 9 月 22 日 (月) 自由民主党政務調査会税制調査会に提出
- ②平成 20 年 9 月 26 日 (金) 自由民主党経済産業部会、商工・中小企業関係団体委員会において要望

(2) 陳情内容

I. 施策関係

1. 取引慣行適正化の更なる推進

政府において、昨年 6 月に策定した「素形材産業取引ガイドライン」及び自動車、産業機械・航空機等、情報通信機器等ユーザー産業のガイドラインの周知を図るために、フォローアップ調査や本年 4 月からの下請かけこみ寺の全国展開を推進していますが、引き続きこの取り組みの成果を着実に上げることが必要不可欠であると考えます。

特に、昨年末からの原材料等の大幅な高騰に伴うコスト増は、急激に鑄造企業の経営を圧迫して一刻も猶予できない事態となっています。日本の物づくりを支えるサポーターティング・インダストリーとしてユーザーの競争力強化に貢献できる鑄物製品を継続的に供給していくためにも、原材料等のコスト増の鑄物製品価格への適正な転嫁が必至の状況にあります。

鑄造産業においては、①原材料等のコスト増の転嫁の難しさとともに、②型保管・廃棄費用の鑄物メーカー負担、③重量に基づく値決め等が鑄造業における不合理な取引慣行として早期に解決することが喫緊の課題となっております。

こうした問題・課題の解決のためには関係諸官庁の側面からのご支援が必要であり、以下の取り組みをお願いしたい。

- ①素形材産業取引ガイドライン及びユーザー産業のガイドラインの周知徹底
- ②経済産業省、公正取引委員会等による「下請かけこみ寺」等の相談窓口機能の強化
- ③素形材産業取引ガイドライン及びユーザー産業のガイドラインの不合理な取引の調査等による改善状況等のフォローアップの継続

2. 鑄物用主要資材及び副資材の量的確保

世界的な資源・エネルギーの供給逼迫を反映して、鑄物用主要資材及び副資材の価格の高騰が続いています。このような状況において、製造業界向けの加工素材を、将来に亘って安定的にユーザーに供給するためには、鉄源を主とする主要資材並びに副資材が容易に入手できるような市場環境が望まれます。

一方、鉄源を筆頭に原材料の多くを海外からの輸入に頼らざるを得ない状況にあります。例えば、鑄物用コークスの国内消費の約 7 割は中国産コークスが占めています。

このような状況が今後も続くとは言え、国産品も寡占状態にあるものが多くあり、世界的な資源高に対応した資材の量的確保に対して安定的に供給される次のスキームの構築をお願いしたい。

- ①鑄物用コークスの安定供給
- ②省エネルギー設備の導入及び資源生産性向上のための設備投資促進

3. 外国人研修生・技能実習期間 3 年を 5 年に延長

現行の 3 年間では十分な技能の修得が進まないの、本人と受入れ側の双方が、より高度な技能習得を希望する場合には、再度入国して 2 年間高度技能実習を受けられるよう、定着化の防止等にも留意しつつ、制度化を図って頂きたい。

4. 戦略的基盤技術高度化支援事業の強化

サポーターティング・インダストリーとしての鑄造業の技術開発等を促進するため戦略的基盤技術高度化支援事業の予算等の強化について支援して頂きたい。

II. 税制関係

1. 適用期限の到来する次の租税特別措置を延長すること。

- ①特定の資産の買換えの場合の課税の特例
- ②中小企業等基盤強化税制

2. 適用期限の到来しない次の租税特別措置の廃止・縮減は行わないこと。

- ①エネルギー需要構造改革投資促進税制
- ②中小企業投資促進税制

5. 中小企業振興に関する事項

(1) 組合代表者会の活動

組合理事長会を組合代表者会に変更して5回開催した。

- 1) 第15回 平成20年 4月15日(火) 機械振興会館
- 2) 第16回 平成20年 6月20日(火) 機械振興会館
- 3) 第17回 平成20年12月12日(金) 大阪
- 4) 第18回 平成21年 2月20日(金) 機械振興会館
- 5) 第19回 平成21年 3月26日(木) 機械振興会館

(2) 組合事務局長会の活動

- 1) 第6回 平成20年6月20日(木) 機械振興会館
- 2) 第7回 平成20年11月21日(木) 白河
- 3) 第8回 平成21年3月26日(木) 機械振興会館

(3) 若手後継者委員会の活動

- 1) 第12回 平成20年4月18日(金) 機械振興会館
- 2) 第13回 平成20年7月12日(木)・13日(金) 京都
- 3) 第14回 平成21年1月21日(水) 名古屋
- 4) 第15回 平成21年3月16日(月) 機械振興会館、17日(火) 羽生

6. 技術開発に関する事項

(1) 技術開発委員会

- 1) 第1回部会 平成20年 8月 5日(火) 機械振興会館
- 2) 第2回部会 平成20年11月20日(木) 機械振興会館
- 3) 第3回部会 平成21年 2月 6日(金) 機械振興会館

(2) 鋳型技術委員会(委員長 橋本邦弘 テーマ:革新的鋳造型技術の探求)

- 1) 第1回 平成20年6月26日(火) 機械振興会館 参加24名
- 2) 第2回 平成20年9月19日(金) 機械振興会館 参加23名
- 3) 第3回 平成20年12月19日(金) 機械振興会館 参加27名
- 4) 第4回 平成21年3月19日(木) 機械振興会館 参加20名

(3) 球状黒鉛鋳鉄の歩留り向上研究委員会(委員長 山田 聡 テーマ:歩留まりの極限化)

- 1) 第1回 平成20年6月25日(水) 機械振興会館 参加12名
- 2) 第2回 平成20年9月10日(水) 機械振興会館 参加11名
- 3) 第3回 平成20年12月10日(水) 機械振興会館 参加9名
- 4) 第4回 平成21年3月11日(水) ㈱アイメタルテクノロジー 参加11名

- (4) キュボラ操業研究委員会（委員長 佐藤兼弘 テーマ：バイオコークスと廃棄物の削減）
- 1) 第1回 平成20年4月18日（金）機械振興会館 参加16名
 - 2) 第2回 平成20年7月18日（金）機械振興会館 参加17名
 - 3) 第3回 平成20年11月14日（金）アイシン高丘㈱ 参加17名
 - 4) 第4回 平成21年1月23日（金）機械振興会館 参加11名
- (5) 電気炉操業研究委員会（委員長 菅野利猛 テーマ：高品質な鋳鉄鋳物を製造するための材質の作り方と考え方）
- 1) 第1回 平成20年5月20日（火）機械振興会館 参加28名
 - 2) 第2回 平成20年8月26日（火）富士電機サーモシステムズ㈱ 参加32名
 - 3) 第3回 平成20年11月18日（火）機械振興会館 参加27名
 - 4) 第4回 平成21年2月18日（水）機械振興会館 参加24名
- (6) 精密鋳造技術委員会（委員長 那須征雄 テーマ：精密鋳造用ワックスの規格化）
（社）日本鋳造工学会精密鋳造部会との共同開催
- 1) 第1回 平成20年5月16日（金）ニュー新橋ビル 参加22名
 - 2) 第2回 平成20年8月22日（金）ニュー新橋ビル 参加22名
 - 3) 第3回 平成20年11月21日（金）ニュー新橋ビル 参加16名
 - 4) 第4回 平成21年2月20日（金）ニュー新橋ビル 参加17名
- (7) 非鉄委員会（委員長 田島正明 新設）
- 1) 第1回 平成20年5月24日（土）名古屋市 参加20名
 - 2) 第2回 平成20年9月9日（水）㈱田島軽金属 参加35名
 - 3) 第3回 平成20年12月3日（水）韓国にて 参加13名
- (8) 技術データベース構築委員会（委員長 伊藤賢児 CAST-NAVI®の開発、普及活動）
- 1) 第1回 平成20年7月23日（水）機械振興会館 参加13名
 - 2) 第2回 平成20年8月28日（木）機械振興会館 参加11名
 - 3) 第3回 平成20年9月24日（水）機械振興会館 参加11名
 - 4) 第4回 平成20年10月29日（水）機械振興会館 参加11名
 - 5) 第5回 平成21年3月6日（金）機械振興会館 参加8名
- (9) 戦略的基盤技術高度化支援事業の実施
- 戦略的基盤技術高度化支援事業として、平成20年度に採択された1件を加え、5件の研究開発を戦略的基盤技術開発室が事務局として、以下の通り実施した。
- 1) 鋳物製造における劣悪作業の作業効率を向上させる革新的なパワーアシスト装置の開発
契約期間：平成20年4月1日～平成21年3月31日（3年目）
委託金額：29,692,950円
 - 2) 鋳鉄溶湯の不純物除去と無害化技術の開発
契約期間：平成19年12月1日～平成20年11月30日（2年目）
委託金額：84,262,500円
 - 3) 精密鋳造品高度化に向けた造型技術の開発
契約期間：平成19年12月1日～平成20年11月30日（3年目）
委託金額：76,122,900円
 - 4) 真球人工砂を用いた高流動低温造型プロセスの開発
契約期間：平成20年4月1日～平成21年3月31日（2年目）
委託金額：32,578,756円

- 5) アルミ基複合材鋳物のハイブリッド砂型低圧鋳造法の開発
契約期間：平成20年8月27日～平成21年3月31日（1年目）
委託金額：44,664,900円

7. 指導・教育・人材育成に関する事項

- (1) 鋳造カレッジ企画運営委員会の活動
- 1) 第4回 平成20年5月14日（水）機械振興会館
- (2) 鋳造カレッジ企画運営委員会と日本鋳造工学会人材育成委員会との合同委員会の活動
- 1) 第6回 平成20年5月14日（水）機械振興会館
 - 2) 第7回 平成20年10月16日（木）機械振興会館
 - 3) 第8回 平成21年2月13日（金）機械振興会館
- (3) 鋳造カレッジの開催・実施
- 1) 平成20年5月、鋳造技士認定証授与式を開催し、80名の鋳造技士を認定した。
 - 2) 関東、中部、中国四国の3地区において日本鋳造工学会との連携の下に鋳造カレッジを開催し、座学・インターンシップを実施して受講生60名全員が修了した。
- (4) 技術普及委員会の活動
- 1) 第1回 平成20年6月2日（月）機械振興会館
 - 2) 第2回 平成20年10月6日（月）機械振興会館
 - 3) 第3回 平成20年10月20日（月）機械振興会館
 - 4) 第4回 平成20年11月10日（月）機械振興会館
 - 5) 第5回 平成20年11月17日（月）機械振興会館
 - 6) 第6回 平成21年1月26日（月）機械振興会館
 - 7) 第7回 平成21年2月9日（月）機械振興会館

8. 標準化に関する事項

- (1) 標準化委員会の活動（委員長 大澤 伸行 ISOおよびJISに関する審議）
- 1) 第1回 平成20年6月19日（木）機械振興会館 参加7名
 - 2) 第2回 平成20年9月16日（火）機械振興会館 参加11名
WGと合同開催
 - 3) 第3回 平成20年12月9日（火）機械振興会館 参加7名
 - 4) 第4回 平成21年1月30日（金）機械振興会館 参加5名
- (2) JIS G 5510 オーステナイト鋳鉄品の見直しに関するWG活動
- 1) 第1回 平成20年5月29日（木）機械振興会館 参加6名
 - 2) 第2回 平成20年6月19日（木）機械振興会館 参加5名
 - 3) 第3回 平成20年9月16日（火）機械振興会館 参加11名
標準化委員会と合同開催
 - 4) 第4回 平成20年10月28日（火）機械振興会館 参加6名

9. 知的財産権の保護及び推進に関する事項

鋳造技術に関する特許情報の収集に努め、鋳造ジャーナルに科学技術文献速報、特許情報を毎月掲載した。

10. 労働安全衛生及び環境保全対策に関する事項

- (1) 環境安全対策委員会の活動（委員長 丸山 実 CO₂簡易算出式の作成、廃棄物調査）
 - 1) 第1回 平成20年7月16日（水）機械振興会館 参加11名
 - 2) 第2回 平成20年8月4日（月）機械振興会館 参加11名
 - 3) 第3回 平成20年10月14日（火）機械振興会館 参加11名
 - 4) 第4回 平成21年2月5日（木）機械振興会館 参加9名
- (2) 鑄造業における安全衛生対策の推進
 - 1) リスクアセスメントの普及活動（4団体合同で研修会を実施）

11. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

- (1) 広報事業
 - 1) 編集委員会を毎月開催し、機関誌「鑄造ジャーナル」を毎月、12回発行した。
 - 2) ホームページに原材料・副資材の価格動向を追加、各種情報の提供、会員データベースによる会員のPR等情報発信強化を図った。またEメールを活用した双方向の情報流通の手段として、会員のメールアドレスの整備を行った。
 - 3) 新聞・雑誌等に業界PR記事の提供
 - ①適正取引ガイドラインの周知と主要原材料・副資材の高騰の現状をユーザーを始め広く関係者に理解してもらうために、4月に日本経済新聞に広告（1/2頁）を掲載した。
 - ②報道機関に対する広報活動として、日本経済新聞、日刊工業新聞、鉄鋼新聞他の専門紙の担当記者へのプレスリリースを行い、資料の提供等取材に協力。
 - 4) 需要業界における各種調査研究資料の提供
 - 5) 経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供
 - 6) その他、業界発展のための広報・情報活動
- (2) 普及啓蒙事業
 - 1) 経営、技術および海外情報に関する相談業務
 - 2) 新技術開発・新製品開発に関する紹介
 - 3) 小中高生の鑄物工場見学受け入れ、鑄物教室開催等
- (3) 情報の提供
 - 1) 法律、制度並びに経営、技術、労働に関する情報の提供
 - 2) 会員（賛助会員を含む）に関する情報の提供
 - 3) 内外の関係情報の提供

12. 国際交流に関する事項

- (1) 日独定期協議

2008年9月18日（木）、ウィーンにてドイツ鑄造技術協会（VDG）との第2回定期協議を開催した。
- (2) メタルチャイナ2008視察団の派遣および報告会の実施

2008年6月4日（水）～11日（水）に中国上海で開催されたメタルチャイナ2008および中国の鑄造会社14社を視察した（参加56名）。また2008年9月10日（木）に、機械振興会館において、「メタルチャイナ2008視察団報告会」を開催し、会員へ広く報告を行った。

(3) 韓国鑄造産業視察団を派遣

2008年12月3日(水)～6日(土)に韓国の鑄造産業視察団を派遣し、5工場、1研究所を視察した(参加53名)。また、12月4日(木)に韓国鑄物工業協同組合と相互交流に関する覚書を締結した。

(4) 国際鑄造フォーラムに参加

2008年9月18日(木)、19日(金)に、ウィーンにおいて開催された国際鑄造フォーラムに参加し、中谷会長が講演を行った。

(5) 世界精密鑄造大会に参加

2008年10月19日(日)～22日(水)に米国ダラスで開催された世界精密鑄造会議に参加し、日本、韓国および台湾の精密鑄造市場について発表した。

(6) 経済産業省/インドネシア・ミッションに参加

2008年10月12日(日)～10月19日(日)に、インドネシア・ミッションに参加して、インドネシアの鑄造産業界の現状把握と工場進出の可能性等を調査した。

(7) 経済産業省/ベトナム・ミッションに参加

2009年3月1日(日)～3月6日(金)に、ベトナム・ミッションに参加して、ベトナムの素形材業界の視察を行い、今後のベトナムを拠点とした進出の可能性等を調査した。

13. 表彰に関する事項

(1) 協会賞の募集・選考・表彰

日本鑄造協会の協会賞として、12月に功労賞、技術賞の募集と選考を行い、平成20年5月の総会の後に協会賞の表彰式を開催した。

(2) 功労賞

1) 特別功労賞

- ①加藤 喜久雄氏 (元アイシン高丘(株) 会長)
- ②児玉 洋介氏 (川口鑄物工業協同組合 理事長)

2) 功労賞

- ①武山 喜久雄氏 (武山鑄造(株) 代表取締役会長)
- ②渡邊 貢氏 (北海道銑鉄鑄物工業組合 理事長)
- ③小山 茂氏 (株コヤマ 取締役相談役)
- ④杉山 清氏 (株スギヤマ 代表取締役会長)
- ⑤梶 正氏 (石川県鑄物工業協同組合 理事長)
- ⑥高橋 孝一氏 (キングパーツ(株) 代表取締役社長)

(3) 技術賞

- ①佐藤 和則氏 (株アイメタルテクノロジー)
- ②津村 治氏他2名 (株日本製鋼所)
- ③平田 実氏他3名 (新東工業(株))

14. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

- (1) 経営、技術、労務関係、教育図書、文献、視聴覚教育資料の斡旋
- (2) 工場視察、見学会の斡旋
- (3) 記念行事、催物の表彰状、感謝状の授与
- (4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

15. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

- (1) 以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

VI. 支部・地域活動、地方組織に関する事項

1. 中部支部活動

- (1) 支部総会を6月に開催、役員会を6月、3月の2回開催、講演会を6月、9月の2回開催、講演会協賛を3回実施。
- (2) 地区外工場見学会として、平成20年9月11日(木)～12日(金)に、北海道地区の工場見学を実施した(参加者40名)。

2. その他の地域活動

- (1) 関東地区
 - 1) 8月11日(月) 第3回川口鋳物工業協同組合主催の「川口鋳物の日」式典を開催
 - 2) 11月7日(金) 埼玉県主催の埼玉県鋳造技術コンクールの表彰式を開催
- (2) 近畿地区
 - 1) 7月28日(月) 原材料動向に関する講演会・情報交換会を開催
- (3) 中国・四国地区
 - 1) 8月23日(土) 本部活動、原材料動向に関する講演会・情報交換会を開催
- (4) 北陸地区
 - 1) 11月18日(火) 本部活動、原材料動向に関する講演会・情報交換会を開催

3. 支部発足準備委員会

支部発足準備委員会を設置し、平成20年7月に第1回の会合を行い、本部情報の円滑な伝達等協会活動の地方展開の活性化を図るための地方組織体制等についての検討を行った。

VII. 関係官庁への協力に関する事項

(1) 下請取引適正化推進会議

経済産業大臣が主催する下請取引適正化推進会議に本会の中谷会長が素形材業界の代表委員として出席した。(12月24日,3月18日開催)

(2) 素形材技術戦略検討委員会

経済産業省の素形材技術ロードマップ作成に協力して鋳造技術分科会委員として、本会の酒井副会長、斎藤副会長が参加、協力した。

(3) 産学人材育成パートナーシップ「機械分科会」

経済産業省の産学による人材育成課題と解決方法を探る産学人材育成パートナーシップ「機械分科会」に本会の木村副会長が委員として参加、協力した。

(4) 素形材産業ビジョンフォローアップ委員会

経済産業省による素形材産業ビジョンフォローアップとしての業種別ビジョンのフォローアップを行う標記委員会に、本会の中谷会長、酒井副会長が出席して鋳造産業ビジョンアクションプラン2008の進捗状況を説明した。

(5) 中央技能検定委員の推薦

中央職業能力開発協会に対し、職種「鋳造(鋳鉄鋳物鋳造作業)」に7名の委員を推薦している。

(6) 雇用創出企業 1,400 社の作成

2月に経済産業省等が作成したものづくりやサービス業、農業等の分野において、採用意欲があり、かつ人材育成に優れた企業を掲載した「雇用創出企業 1,400 社」（企業概要集）に当協会会員企業 87 社が掲載された。

VIII. 関係団体との交流に関する事項

(1) 需要業界団体との交流

1) 平成 20 年 4 月 9 日（水）自動車会館会議室にて、（社）日本自動車工業会及び（社）日本自動車部品工業会と関連団体との懇談会を開催した。本会からは加藤会長が出席した。

(2) 素形材関連団体連絡会・鋳団連

- 1) （財）素形材センターが主催する素形材産業懇談会に当協会の中谷会長が出席し、経済産業省幹部と素形材業界幹部との意見交換を行った。
- 2) 経済産業省と素形材関係団体間の連絡の円滑化、情報交換を目的とした「素形材関係団体連絡会」に角田専務理事が毎月出席した。
- 3) 鋳団連総会に出席した。

(3) 鋳物関連団体への協力

- 1) （社）日本鋳造工学会の春・秋大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援。
- 2) （財）素形材センターの素形材月間事業への後援。
- 3) ダイカストマシン工業会主催のセミナーへの後援他。

IX. 会員及び組織に関する事項

1. 組織拡充強化に関する事項

- (1) 協会パンフレットを作成し、未加入の企業、組合の加入を促進した。
- (2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した。

2. 会員及び組織に関する事項

- (1) 正会員及び賛助会員（平成 21 年 3 月 31 日現在）
 - 1) 法人正会員 336
 - 2) 団体正会員 33 組合（589 社）
 - 3) 賛助会員 30